

[1] 新会長挨拶

田村 武

このたび長い歴史と輝かしい伝統をもつ京土会の会長にご推挙たまわりました昭和46年卒業の田村でございます。私にこのように重大な役割が果たせるかどうか、はなはだ不安ではございますが、森澤前会長の路線を継承しながら、微力を尽くす所存でございますので、会員各位の絶大なご指導、ご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。



今年は平成21年ではありますが、強いて昭和で申しますと昭和84年になります。この昭和84年をちょうど半分に分けますと、昭和42年になりますが、この昭和42年に我々のクラスが京都大学に入学いたしました。従いまして、京土会の昭和以降の歴史の半分に体験してきたことになります。昭和42年にはすでにこの土木総合館、実は最近では総合研究4号館と申しますが、これはすでに完成しておりました。まだ、ほとんど完成直後の状態にして、今の桂キャンパスのように本当にまっさらな建物でした。入学式直後にこの部屋に全員集められて、初めてのオリエンテーションをここで受けました。京土会を意識したのは学部の4年生のときであります。私は丹羽研究室に所属しておりましたが、ある日の夕方、丹羽先生が研究室の学生に「ちょっと来い」と言われまして、ついに行ったのが京土会の懇親会の終わった会場でした。ご馳走が山のように残っていて、おなか一杯いただきました。そのときから「京土会とはいいものだ」という印象をもった次第であります。昨年、若い世代の京土会への帰属意識が薄いといわれますが、その前に、彼らに「京土会とはいいものだ」という意識を植え付ける努力が必要だと思います。

さてここでは、2つのことを申し上げたいと思います。ご承知のようにアメリカのサブプライムローンに端を発した世界不況の嵐がわが国にも大きな影響を与えました結果、もともと逆風状態にあった建設業界はさらに厳しい状況に立たされつつあります。しかし、ここ数日のニュースによりますと、日本の株価もようやく1万円の水準に戻りつつあり、景気の底打ち

感がほんの少し出てきたような気もいたします。ところで建設業界の不況の根幹には、「わが国の社会基盤整備はほとんど完了した」という認識が国民に広まっているからだと思います。マスコミや一部の評論家の意見がもてはやされた結果ですが、事実ではありません。わが国の社会資本の歴史は欧米と比べてまだまだ浅いものであり、洪水や地震などの自然災害が生じた場合、たちどころにその脆弱さが見えてまいります。そういう状況を国民の皆さんにご理解いただけるような努力がわれわれに必要だと思います。広い意味での社会教育が大きな課題といえましょう。むろん大学のみでできることではありませんので、卒業生の方々ははじめ、建設業界全体で地道に取り組んでいかねばならない課題です。

もう1つの大きな課題は国際化であります。現在、文部科学省において「グローバル30」というプロジェクトが動きつつあります。これは、わが国の大学の国際競争力をよりいっそう向上させることを目的としたもので、外国人学生がもっと日本に留学しやすくなるように、英語の講義だけで卒業できるコースを作るという提案を募集しています。特に、大学院のみならず学部でも英語コースを作ることが大きな目玉であります。全国から10余りの大学を選び、そこに集中的に予算を回すというプロジェクトであります。京都大学も現在、これに応募しておりますが、学部コースは、われわれの「地球工学科国際コース」が京都大学からは唯一のものであります。もし、これが採択されますと平成23年度からは学部学生のうち30名は外国の留学生が占めることになり、一部の日本人学生を交えて、すべての講義を英語で教えるという画期的なコースが始まります。いうまでもなく、このようなコース運営はととても大変なことであることは重々に承知しております。しかし、わが国の土木工学を継承発展させる1つの大きな手法は「国際化」であります。アセアンを始め東南アジア諸国あるいはアフリカ諸国では、わが国の土木工学が大いに期待されています。学部のみならず大学院修士課程でも英語コースを始める予定であり、土木系の教員はいま、その準備に大きな精力を注いでおります。現在、環境工学専攻の松岡譲教授が指揮をとっておられますGCOE「アジアメガシティの人間安全保障工学拠点」とも連動しながら、京都大学の土木工学、環境工学はここ数年で国際化に大きく展開しようとしております。このような国際化に当たっては、大学教員のみならず、京土会会員の方々の種々のご経験や情報が極めて重要であります。

以上、取り留めのない拙い話ではありますが、京大土木系教室のOBの方々、教員そして学生等が一体となって、わが国のため、世界のために大きく貢献できることを強く願望いたしまして、私の挨拶に換えさせていただきます。1年間、どうかよろしくお願い申し上げます。